

岩手の災害対応～能登半島地震から1年、災害に備える～



日本赤十字社は、災害対策基本法に基づく「指定公共機関」として、災害対応への協力義務があります。
令和6年8月12日からの台風5号により、岩手県では、10日からの総雨量が400ミリを超え、平年の8月1か月分の降水量の2倍を超える記録的な大雨となりました。
県内各地で避難所が開設され、そのうち久慈市から、避難所で使用する救援物資が足りなくなる恐れがあることから、8月12日の朝に救援物資の追加要請があり、同日午後には搬送しました。
日赤は、県の災害対策本部とも連携しており、いつでも救護班を派遣する準備をしています。
今後発生し得るあらゆる災害に対応できるよう、救援物資の搬送はもちろん、救護班の出動に備え、災害救護の知識や技術の習得をはじめ、実災害を想定した演習を平時から実施しています。

令和6年8月台風5号災害 久慈市への救援物資搬送



毛布 300 枚、タオルケット 300 枚、安眠セット 500 個、避難所用テント 140 張を配送しました。

救護員看護師養成研修【6/12】

盛岡赤十字病院の看護師を対象とし、救護員に登録するための座学および演習を実施しました。



臨時のテント救護所を運営

日赤第1ブロック（北海道・東北） 合同災害救護訓練【10/4～5】

今年度は北海道北見市の日本赤十字北海道看護大学にて、北海道・東北の日赤職員が参集し、地域の災害対策本部や避難所対応等の大規模な実働訓練を実施しました。



避難者を診察

日赤第1ブロック（北海道・東北） 赤十字救護班研修会【9/21～22】

今年度は宮城県石巻赤十字病院にて、北海道・東北の日赤職員が参集し、災害救護活動の知識と技術を習得するための座学及び演習を実施しました。



避難所管理者や要配慮者をケア

岩手県総合防災訓練【11/10】

今年度の県総合防災訓練は花巻市東和にて、医師会や薬剤師会などの各種団体と連携し、避難所対応訓練を実施しました。



避難者の健康状態を確認し、ホワイトボード上で一覧にして共有

国内災害義援金、海外救援金にご協力ありがとうございました。

令和6年能登半島地震災害義援金
日赤岩手県支部取扱報告
(2024年12月15日集計時点)

受付金額 **4,139万5,850円**
受付件数 **618件**



(一社)日本自動車販売協会連合会
岩手県支部 様

義援金は被災都道府県に設置される義援金配分委員会へ全額をお送りし、市町村を通じて、被災地の方々の生活支援に役立てられます。
引き続き皆様のご協力をお願いいたします。

令和6年9月能登半島大雨災害
義援金日赤岩手県支部取扱報告
(2024年12月15日集計時点)

受付金額 **85万1,789円**
受付件数 **34件**



岩手県立盛岡青松支援学校 様

2024年台湾東部沖地震救援金
日赤岩手県支部取扱報告
(2024年6月末受付終了)

受付金額 **590万4,920円**
受付件数 **34件**



いわて生活協同組合 様

本海外救援金は台湾赤十字組織による被災者救援・復興支援活動に活用されています。

司法書士による相続・終活セミナーのご案内

令和6年4月1日から相続登記の義務化がスタートしました。

この機会に相続登記の義務化を含め、「相続」、「遺言」について考えるきっかけにしてみませんか？

今年度第2回のセミナーを3月9日（日）13時からホテルメトロポリタン盛岡本館で開催します。（希望者の個別相談有り）

受講料、個別相談全てが無料のセミナーです。

お一人でも、ご夫婦でもご興味のある方はお気軽にご参加ください。

先着30名ですでお申込みは早めに!!

先着順 岩手県司法書士会・日本赤十字社岩手県支部連携企画



高額寄付者のご紹介

令和6年5月～12月に岩手県支部へ10万円以上のご寄付をいただき、掲載のご了承をいただいた個人様・法人様のお名前を紹介しています。（順不同・敬称略）

法人

・(株)サンギフト (奥州市)	・(有)佐々長水道 (八幡平市)	・医療法人わげん (北上市)
・H2(有) (盛岡市)	・(株)岩手防火管理サービス (花巻市)	・(株)E Y S (奥州市)
・(株)中館建設 (二戸市)	・東京エレクトロンテクノロジーソリューションズ(株)東北事業所 (奥州市)	・(有)宝海沼ファーム (北上市)
・(株)岩本電機 (洋野町)	・サイトウデンタルクリニック (北上市)	・川守田医院 (紫波町)
・(株)川原木神仏具店 (軽米町)	・(有)ケイ・ワイ・コーポレーション (盛岡市)	
・(株)ワールド設備機器 (奥州市)		
・(株)本宮運輸 (金ヶ崎町)	・第一商事(株) (盛岡市)	

個人

・三條 哲也 (盛岡市)
・智田 文徳 (盛岡市)
・藤井 純一 (盛岡市)



読者プレゼントのご案内

読者の皆様からの感想を募集しております。WEBフォームまたははがき・FAXでお寄せ下さい。
抽選で日赤オリジナルグッズ（クリアファイル、メモ用紙、蛍光ペン）を進呈致します。
当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。

WEBフォーム <https://forms.office.com/r/nQKNRQphbK>
はがきまたはFAX 下記必要事項（①～⑧）を明記のうえ、送付ください。
①郵便番号、②住所、③お名前、フリガナ、④年齢、⑤性別、⑥メールアドレス、⑦本誌の感想、⑧今度取り上げて欲しいテーマ



日本赤十字社 岩手県支部
Japanese Red Cross Society

〒020-0831 盛岡市三本柳 6-1-10
TEL 019-638-3610 FAX 019-638-3619 <https://www.jrc.or.jp/chapter/iwate/>



日赤岩手県支部の最新の活動を SNS でチェック!!

赤十字いわて

No.64
2024
冬季号

赤十字は、 動いてる!



TEAM SAVE365 一緒なら、救える。
日本赤十字社の活動は、皆様の寄付によって支えられています。

特集

岩手の青少年赤十字誕生 100 周年 ～今までとこれからの 100 年～



日本赤十字社 岩手県支部
Japanese Red Cross Society





特集 岩手の青少年赤十字誕生 100 周年～今までとこれからの 100 年～

赤十字は、動いてる！
+SAVE365

岩手の青少年赤十字が誕生から100 年を迎えました !!



青少年赤十字（以下、JRC）が大正 11 年に創設された頃は少年赤十字と呼ばれていました。大正 12 年の関東大震災後に食糧支援や文具支援を行ったことが最初の活動といわれています。岩手県では大正 13 年（1924 年）に結成され、令和 6 年（2024 年）で 100 年を迎えました。

JRC は、誰の心にもある「困っている人や苦しんでいる人を見たら、何か役に立つことをしてあげたい」という赤十字の人道の精神を大切に、人々の幸せや世界の平和のために尽くすことができる人間になることを目的とし、様々な活動を学校教育の中で展開しています。

青少年赤十字の目的 Junior Red Cross

児童・生徒が赤十字の精神に基づきながら
学校教育の場で様々な活動に取り組むことにより
世界の平和と人類の福祉に貢献する人間を育成する

223 校・園の
約 3 万人が
加盟して
いるガー!!



青少年赤十字の目標 Junior Red Cross

実践目標「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」
態度目標「気づき」「考え」「実行する」

岩手の青少年赤十字百年のあゆみ

1924 年	日本赤十字社岩手支部少年赤十字団結成（写真右上：当時の岩手支部）
1950 年	第 1 回青少年赤十字団トレセン開催（写真右下：当時の西鉛温泉）
1957 年	再出発 10 周年記念事業として「一元玉募金」開始
1962 年	第 1 回青少年赤十字大会を盛岡市立下橋中学校で開催
1979 年	機関誌「岩手の青少年赤十字」創刊
1990 年	岩手県高等学校文化連盟国際理解部門専門部 J R C 委員会設立
2000 年	国際交流事業シンガポール国訪問
2004 年	国際交流事業パプアニューギニア国メンバー受け入れ
2014 年	東日本大震災被災地の児童をサマーキャンプに招待
2021 年	新型感染症のためトレセン中止、スタートプログラム実施
2022 年	日本の青少年赤十字創設百周年
2024 年	岩手の青少年赤十字誕生百周年



今年度の活動を紹介するガー!!



6 月 J R C 指導者研修会



7 月 高校生インターンシップ



8 月 リーダーシップ・トレーニング・センター



8 月 親子サマースクール



9 月 未加盟校教員研修会



1 0 月 高文連 J R C 委員会



特集 岩手の青少年赤十字誕生 100 周年～今までとこれからの 100 年～

赤十字は、動いてる！
+SAVE365

センター長による座談会「リーダーシップ・トレーニング・センターの舞台裏」

岩手の J R C が誕生から百年を迎えたことを記念し、今年の青少年赤十字活動事例発表研究会（11/15、サンセール盛岡）において座談会を企画しました。出演いただいたのは、「青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター（以下、トレセン）」の運営に携わっている 3 名のセンター長です。当日はフロアからたくさんの発言があり、活気に満ちた時間となりました。

トレセンって何？

県内 J R C 加盟校の小中高生が、2 泊 3 日の共同生活を通じてリーダーシップを養成する、宿泊型研修プログラムです。第 1 回（1950 年）の開催以来、次代を担う人材育成の場として、半世紀以上の歴史があります。



小学校班・センター長（八幡平市立柏台小学校・藤野高嗣校長）

オリエンテーションが大事な種まきです。「僕にも出来そうだ」「やってみたいな」と思えるよう、いかにして導くか。そのために参加者の動機を明確にしたり、目指すリーダー像を描かせたり、ゲーム要素を取り入れて関わりを作り出したりしています。J R C は「困っている人を見たら、何もせずにはいられない子どもの育成」を一つのねらいとしているので、そんな姿が見られると、トレセンのよさを感じます。

スタッフは、普通の学校のように「これをしなさい」といった指示はせず、ヒントを出し、待ちの姿勢でいます。すると徐々に「自分たちでやらなくては」と動き出し、活動が進み始めます。最終日までには、帰校後に取り組みたいことを企画立案して解散するのですが、生き生きと帰っていく姿を見ると、本当にやってよかったと思えます。



藤野センター長
（小学校）

中学校班・センター長（日本赤十字社岩手県支部・石川健嗣託）

中学生には中学生なりの常識があり、その常識にいかにか揺さぶりをかけるかが重要です。キーワードは「迷ったら動け」です。「行動しなければ結果が出ない、結果がなければ自己評価も出来ない」と背中を押すような言葉がけをしています。

フィールドワークは大切なプログラムで、生徒達はグループを作り、関門をクリアしながらゴールを目指します。「創造の森」という関門では、「1 分間で J R C を P R する動画を作る。準備の時間は 7 分。全員出演のこと」という課題に沿って動画作成に挑みます。全員参加というルールによって、日頃は目立たない子も堂々と演技してくれます。スタッフは、P R 動画の内容以上に、仲間同士の支え合う態度や、互いのよさを認める発言などを見取って採点するようにしています。



石川センター長
（中学校）

高校班・センター長（花巻東高等学校・伊藤亮教諭）

参加者は「J R C といえばボランティア」という先入観を抱きがちで、受け身の姿勢でいるので、「自ら求めなければ何も得られない」「自分を知るには他を知ることが大事」と高い意識を求めます。自ら気づいて考えたことが誰かのためになり、喜んでもらえると、自信と意欲につながります。世界にはどんな課題があるかを知り、体験を通じて自分にも出来ることがあると気づかせる、それを大事にしています。異質なものととの出会い、非日常に身を置くことの良さを伝えたいですね。

過去には、爪にマニキュアを塗ってきたり、途中で帰りたいと言い出したりする生徒もいましたが、「ここに来た目的は」「先生は何を期待したのだろう」と声をかけ、自ら考えさせます。最後には「やっぱり来てよかった」という子が多いですね。



伊藤センター長
（高校）

進行役（葛巻町立小屋瀬中学校・工藤輝之教諭）

百年の歴史を誇る岩手の J R C 活動が盛んになることにより、学校教育も充実すると思いますので、トレセンに多くの子ども達が参加することを期待します。また、スタッフを経験することは、先生にとっても役立つと思いますので、加盟校のご理解とご協力をお願いします。



地域包括ケア推進事業

「赤十字地域交流フェスタ」

赤十字オータムフェスタ in 陸前高田 開催！

笑顔満開 広がれ 地域の輪

地域のだれもが参加し交流できるよう、10 月 12 日（土）に陸前高田市の中田団地駐車場にて、赤十字オータムフェスタを開催しました。

イベントには、団地にお住まいの方や、知人友人を誘って来られた方など、50 名の方に参加していただきました。皆さん赤十字救急法やトランシーバー、ハートラちゃんぬりえ、災害食（包装食）作りなどを体験。また、陸前高田市赤十字奉仕団・大船渡市赤十字奉仕団による、豚汁の炊き出しも行われ、来場された方がテーブルを囲み、豚汁に舌鼓を打ちながら楽しく交流しました。



身近な赤十字推進事業における奉仕団活動

国が推進する「地域包括ケアシステム」に貢献するため、岩手県支部は「身近な赤十字推進事業」を展開しています。この事業における奉仕団活動として、地域住民の相互の関係づくりのための活動を推進しており、各地域で赤十字奉仕団が様々な活動をおこなっています。

赤十字奉仕団が企画したサロンやイベントでは、活動を通して地域の方達と交流を深め、関係づくりや地域づくりに貢献しています。

令和 6 年度開催例

- ・花巻地区赤十字奉仕団：ノルディックウォーキングや陶芸・藍染体験
- ・矢巾町赤十字奉仕団：健康生活支援講習（講話や健康体操）
- ・金石市赤十字奉仕団：健康生活支援講習（講話や健康体操）
- ・金ヶ崎町赤十字奉仕団：健康生活支援講習（避難生活支援講習）



ノルディックウォーキング
（健康維持）



健康生活支援講習
（健康体操）



避難生活支援講習
（ホットタオルの作り方、毛布ガウン）

人生会議(ACP)という言葉を知っていますか？

人生会議（ACP：Advance Care Planning）とは、もしものとき（最期のとき）のために、人生の最終段階における医療・ケア、生活、さらに、自らが大切にしていることについて前もって考え、家族等の信頼できる人や医療・ケアチーム等と繰り返し話し合い共有する取り組みです。

私たちは、誰でも、いつでも、命にかかわる大きな病気やケガをする可能性があります。もしもの時にどうしたいか、「私の心づもり」として文章に残しておきましょう。

人生会議をしようと言われても「難しい」「できない」と感じる方も多いと思います。そんな時は「私の想いゲーム」を通して、楽しくかつ具体的に、そして、他の方の考えや思いを聞くことで、自分の人生、自分の最期を考えるきっかけを作ってみませんか？

ご興味のある方は、日本赤十字社岩手県支部 事業推進課までお問い合わせください。

